平成30年4月19日(木)　陸奥新報(3面)

平均寿命全国ワースト10入り

要因に食生活、低受診率

津軽地方の自治体

意識の低さ 足かせに

厚生労働省が公表した「2015年市区町村別生命表」で、県内自治体は平均寿命の全国ワースト10位以内に男性が7市町、女性が3町村並び、50位以内にも多く入った。「短命県」返上に向けて各自治体が取り組みを広げる中、ランク入りした津軽地方の自治体担当者は、塩分やアルコール摂取が多い食生活、低受診率などを要因に挙げた。健康に対する意識の低さが、いまだ改善の足かせとなっている現状が浮かび上がった。（本紙取材班）

ひろさき健幸増進リーダーが指導者となり健康講座が開かれるなど、弘前市では住民組織の活動が広まっている＝2018年2月

女性の順位が前回より悪化しワースト9位となった板柳町。男性もワースト24位で、町健康推進課の石戸谷恵美子保健師は「塩分やアルコールの摂取が多い一方で、野菜摂取量が少ない食生活が一因では」と指摘。男性がワースト12位、女性が同25位の大鰐町の吹田秀世健康福祉課長は「肝炎や肝臓がんでの死亡率が高い」と一因を分析し、どちらも食生活の改善を課題に挙げた。

深浦町は男性が78・1歳でワースト8位、女性は85・8歳で同48位だった。町は若者が健診を受けやすくするよう事業所に働き掛けているほか、あまり健診を受けない漁業者に受診してもらう仕組みづくりについても漁協に依頼している。堀内崇史町福祉課長は「（結果を）重く受け止め、継続的な健康増進策を工夫し、取り組んでいきたい」とした。

女性が前回より1歳短くなった85・4歳で今回ワースト11位となった藤崎町は、乳児の死亡と若者の自殺が大きく影響した。久保田整町福祉課長は「自殺予防対策も必要なテーマになるかもしれない」と話した。

男性がワースト5位の中泊町は潜在的豊光町長が「県が取り組んでいる減塩やだし活といったところを含め、自分の健康は自分で守るんだという意識を持ってもらうよう頑張らないといけない」と意識向上の重要性を説いた。

男性が78・1歳でワースト9位（前回76・7歳で7位）となった平川市。三上裕樹市健康福祉部長は「これまで健康講座や運動講座の開催のほか、検診の無料化などに取り組んできたが、大きな改善が見られず残念。短い期間での改善の難しさを実感した」と肩を落とす。

2015年に健康都市宣言した黒石市は前回76・7歳、ワースト9位だった男性が78・3歳、14位となり、10位を脱した。千葉毅市健康福祉部長は「検診などの受診のPRや食育などに力を入れてくれた保健師や食生活推進委員の頑張りが形になってくれた」と関係者の取り組みをたたえた。

一方、男女とも前回より平均寿命を延ばしたのが弘前市。男性は1・3歳延びて79歳、女性は0・5歳延びて86・2歳となり、どちらもワースト50位圏外だ。市はがん検診や特定健診などの受診率アップを課題の一つと捉え、特に40～50代の働き盛り世代への意識改革に力を入れている。また「ひろさき健幸増進リーダー」や「健康づくりサポーター」による啓発活動が広がりをみせており、工藤里美市健康づくり推進課課長補佐は「健康への意識は高まりつつある」と話した。

本県の2015年 市町村別平均寿命

市町村	男	女
青森市	78.9	85.7
弘前市	79.0	86.2
黒石市	78.3	86.0
五所川原市	78.5	86.0
つがる市	78.6	86.6
平川市	78.1	85.7
鰺ケ沢町	78.9	86.1
深浦町	78.1	85.8
西目屋村	78.6	86.0
藤崎町	78.5	85.4
大鰐町	78.3	85.7
田舎館村	78.8	85.9
板柳町	78.5	85.4
鶴田町	78.8	86.1
中泊町	78.1	85.9
県平均	78.7	86.0

※単位:歳、東部を除く津軽関係分